



2020年度3学期スタート

1月12日、いよいよ3学期が始まりました。
始業式では、子どもたちに三つの話をしました。
一つ目は丑年の話です。

牛(丑)は、昔から人にとって大切な動物であった。時には農耕に、時には食料として役に立ってきた。農耕においては、厳しい作業を黙々と行う姿から、丑年は「我慢する(耐える)」年である。また、十二支を植物の生涯に例えた説も話しました。丑年は、まかれた種が土の中で発芽を待つ時期である。やがて芽を出して成長していくのを待つ年である。我慢して次の年が来るまで力を蓄えて、やがて来る良いこと(発芽、発展)を待つ時期であること。ちょうど、新型コロナウイルスの感染が広がっている今なので、(いろいろやりたいことがあっても)我慢して耐えることで、やがていいことがある。良いことが来ることを待ち、我慢する年にしようという話。

二つ目は、3学期のこと。

学校は4月が始まりなので、3学期は最後の学期。次につながる大切な学期。4月からの新しい学年、新しい学校生活に向けて、今年のまとめとしてのお勉強をしっかりとしていこうという話。

三つ目は、挨拶のこと。

運動会の時もそうでしたが、集会などで、話す人が正面に立ったら、お互いに挨拶をする約束事があります。正面に立つ⇒気を付け。一歩前に出て相互に礼を交わす。始めの言葉で、教頭先生が正面に立った時にそれができていませんでした。簡単な挨拶の約束事なのに。私の時はどうかと思い、一歩出てあいさつを交わす様子を見ました。やはりきちんとできていないので、やり直しました。朝の登校時のあいさつの様子のこともあり、急遽三つ目の話題にしました。

内容は、高校時代の通学時の出会いの話です。通学路で、毎朝すれ違う男性と無言ですれ違う日々があり、その気まずさから会釈をはじめ、やがて「おはようございます」のあいさつを始めたこと。その後、その男性が曾祖母の葬儀に手伝いに来ているところで会い、挨拶によって人とのつながりができていて良かったという経験談。

交通当番の方へのあいさつは、しているという拳手が6割ぐらいで、全員が出来ているわけでないこと。そういう場面で挨拶のできる北小の子であってほしいという話。

話題が増え、時間が長くなるか気にしましたが、子どもたちはきちんと聞いてくれるように感じました。あとは、行動としてできることが大切になります。

お笑い芸人のTさんではないですが、『やれば、できる!』の気持ちで、三学期を過ごしてほしいと思います。

新型コロナウイルスの感染拡大により、これまで通りにはいかないことが多い日々が続いています。いろいろな報道がありますが、まずは自分にできること、したほうがいいこと、しなければならぬことを実行し、自分、家族、近しい人を守る行動をとっていくしかないように思います。

学校でも、感染防止のガイドラインに則り、令和2年度の教育活動のまとめとなる3学期の活動を進めていきます。

雪の中でも元気な北っ子

1月12日は、午前9時半ごろから雪が降り始め、下校時刻の正午前には、校庭の2割ぐらいの場所が白くなっていました。

3学期初日。学級ごとに時間を過ごしていましたが、10時半ごろには、休み時間のクラスも多くなったため、校庭にはたくさんの子どもたちが出て元気よく遊んでいました。まだ積もるほどではなかったのですが、降雪がうれしかったようです。

夕方には、午後から遊びに来た子どもが作った雪だるまが校庭の南西の端のところにできていました。翌日、雪遊びをするクラスもあり、雪を満喫した子どもたちでした。